

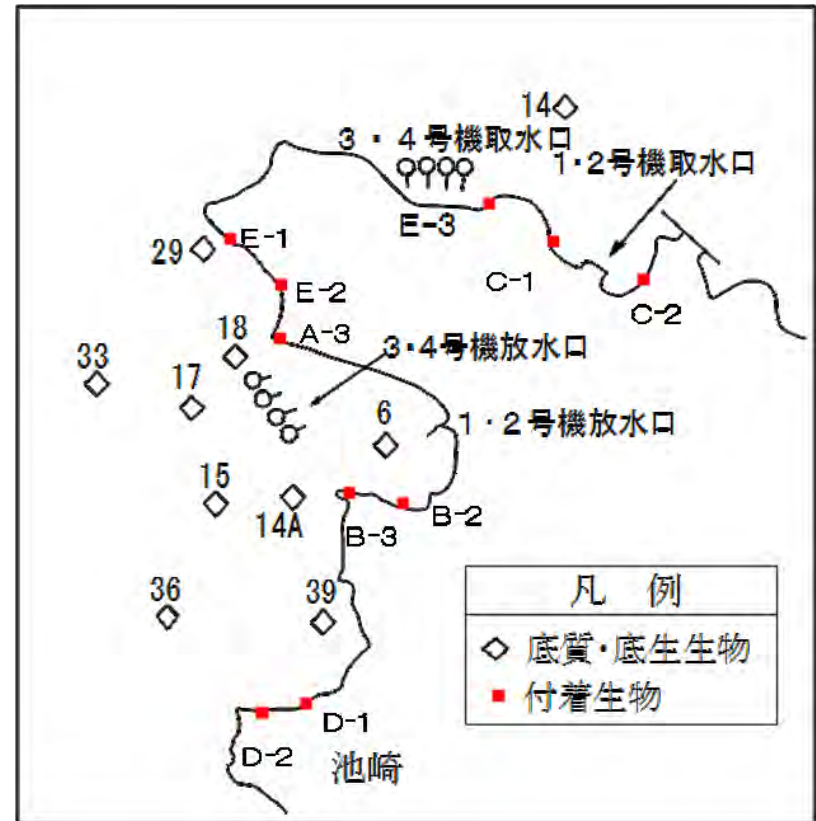
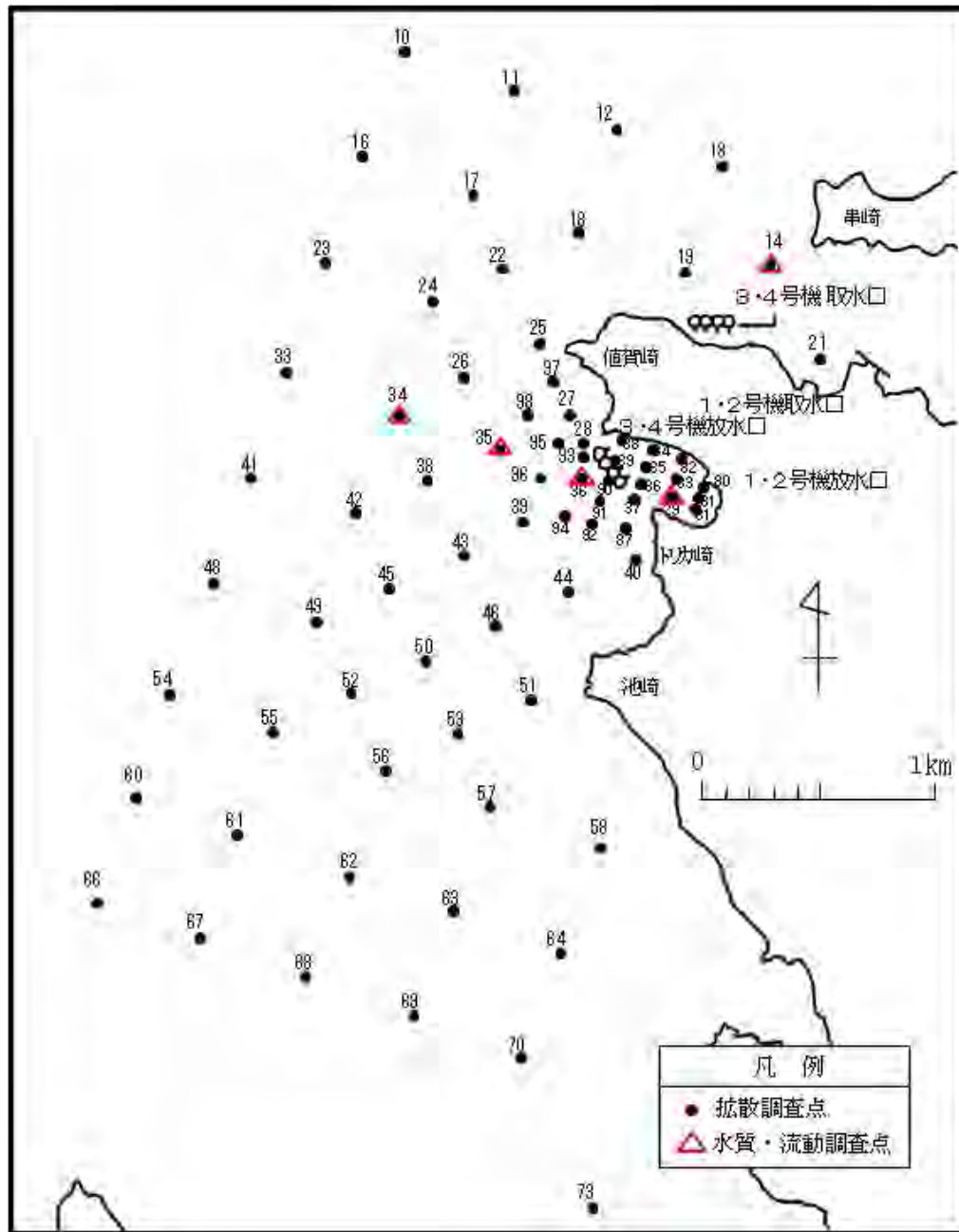
平成26年度温排水影響調査(冬季)結果

平成27年9月
玄海水産振興センター

平成26年度調査実施状況

項目	調査月日	内容	調査 点数	観測層	調査方法および使用機器
拡散調査	7月 22日 3月 2日	水温 塩分	74	水温：0.3(表層), 1, 2, 3, 4, 5, 7, 10m 塩分：0.3(表層) m	<ul style="list-style-type: none"> 水温、塩分：電気水温塩分計による現場測定 (アレック電子 ACT20-D型)
流動調査	7月 15日	流向 流速	5	0.3(表層), 5, 10, B-1(底層) m	<ul style="list-style-type: none"> 流向・流速計による現場測定 (アレック電子 AEM213-D型)
水質調査	8月 21日 2月 4日	水温 pH DO 濁度 クロロフィル-a	5	0.3(表層), 5, 10, B-1(底層) m	<ul style="list-style-type: none"> 水温、DO、濁度：多項目水質計による現場測定 (JFEアドバンテック社 ASTD-102) pH：卓上測定器による測定 (TOA-DKK社 卓上pH計) クロロフィル-a：蛍光法
底質・底生 生物調査	8月 20日	粒度組成 COD ベントス	10	海底土	<ul style="list-style-type: none"> 粒度組成：ふるい分け法 COD：アルカリ性法 ベントス：マクロベントスについて定量・同定
付着生物 調査	8月 23日 24日 2月 19日 20日 21日	動物 植物	10	潮間帯	<ul style="list-style-type: none"> ベルトトランセクト法 岸側各点から海方向にメジャーを伸ばし、1.5 m毎に50 cm枠の中の種類、数量(被度)を調査

調査定点図

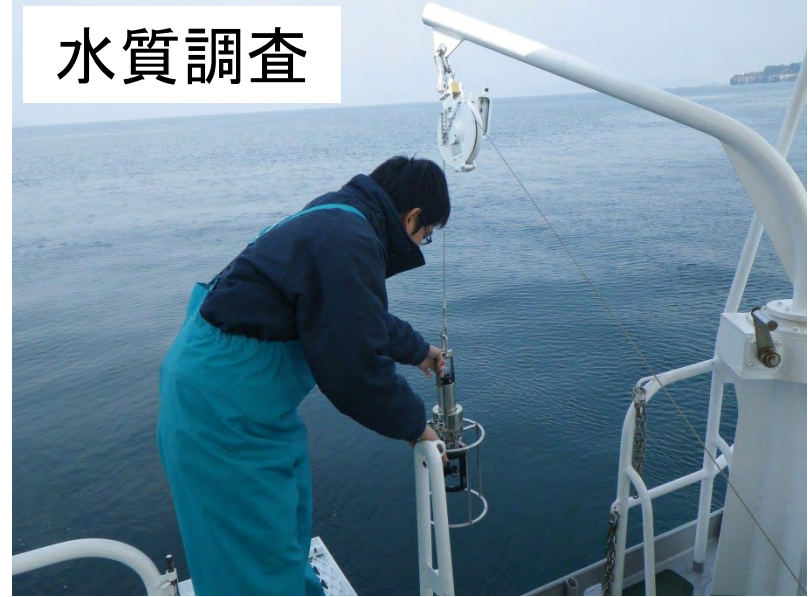


拡散調査・水質調査風景

拡散調査



水質調査

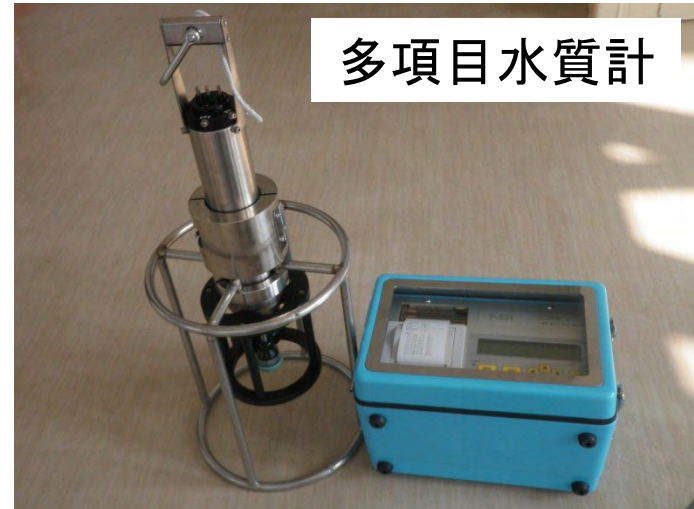


調査機材

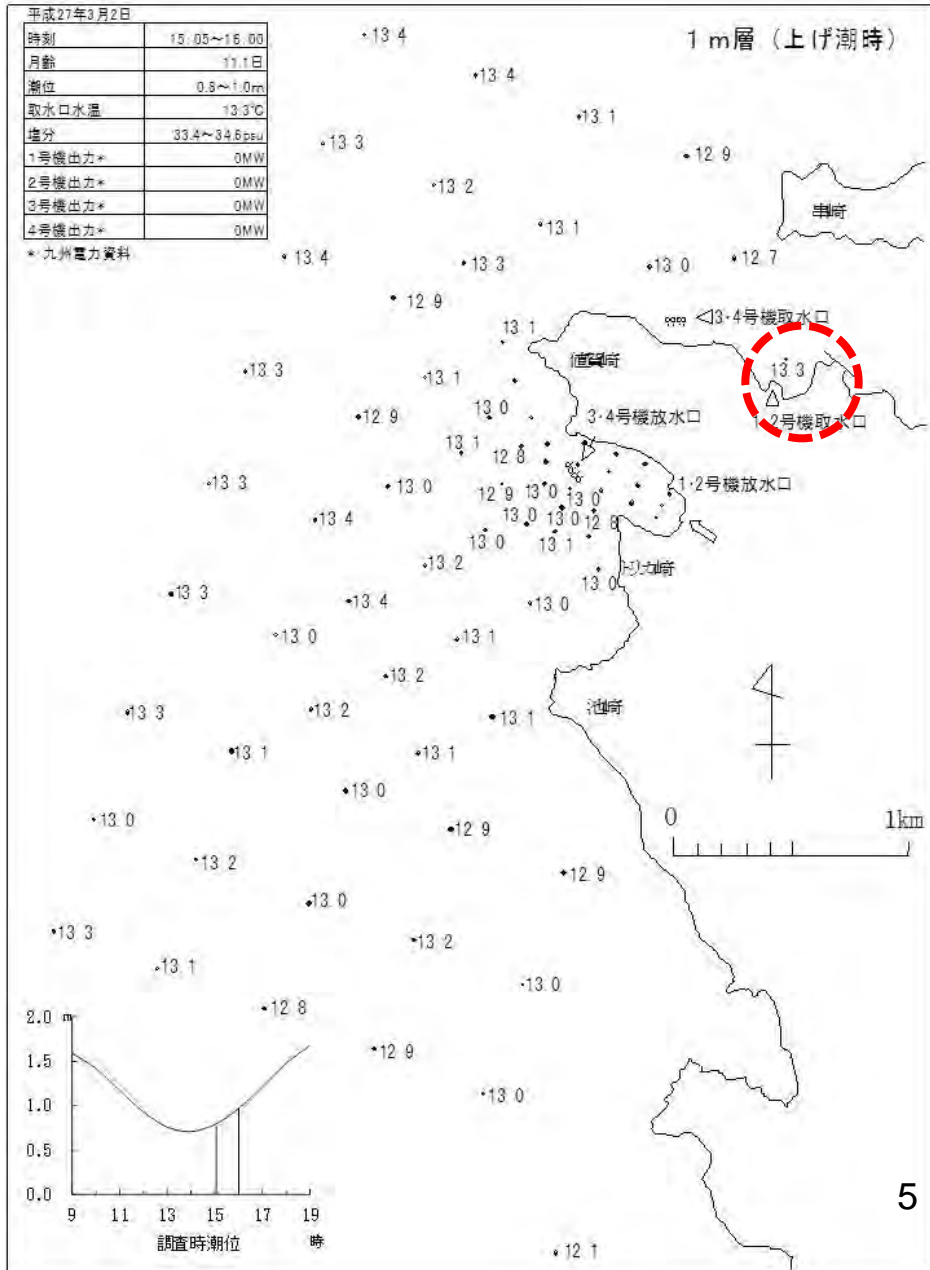
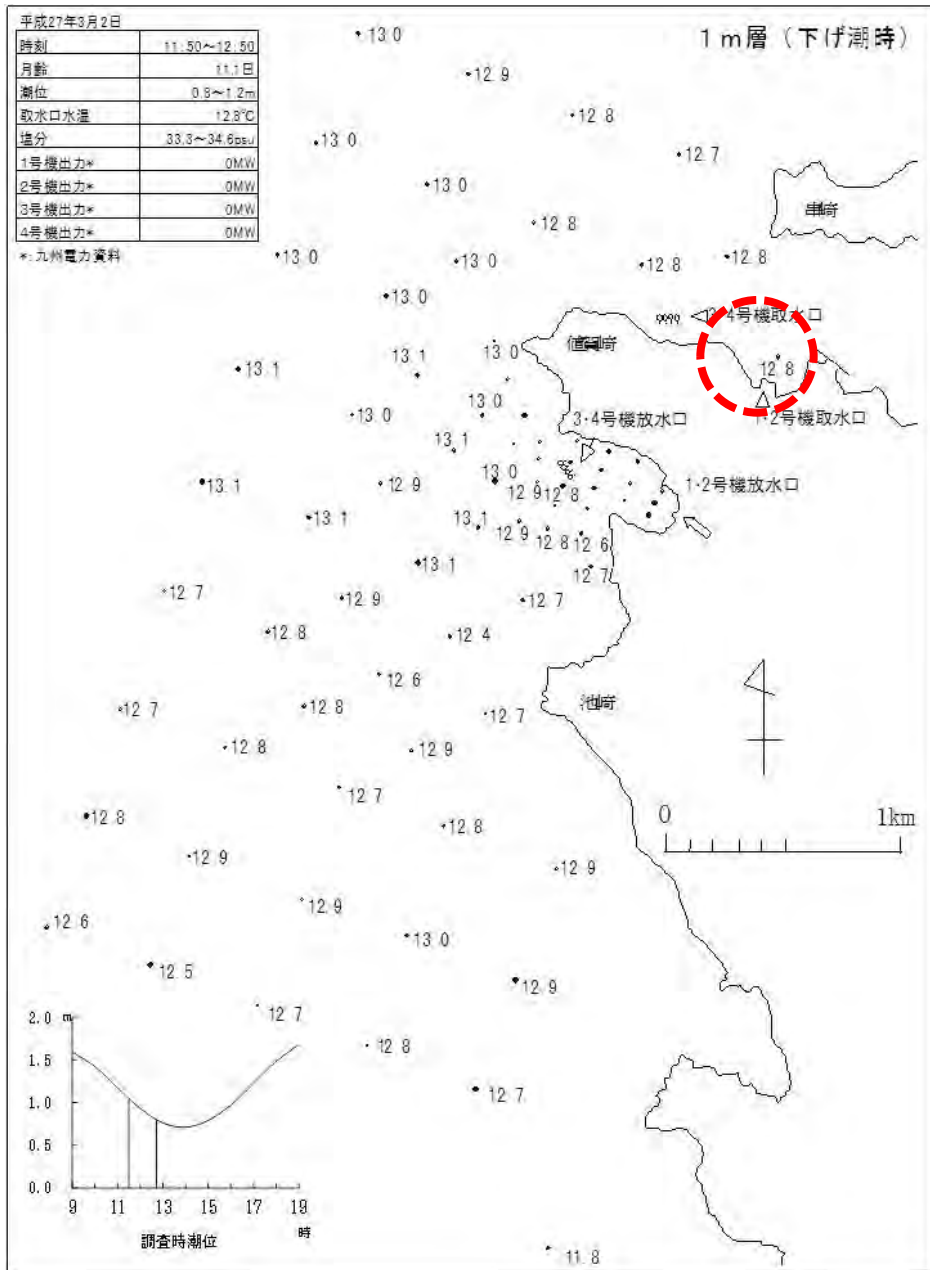
水温塩分計



多項目水質計



冬季拡散調査結果



水質調査項目の説明

水温: 海水の温度

pH : 水素イオン濃度指数。

7が中性であり、大きいとアルカリ性、小さいと酸性。

DO: 海水中に溶けている酸素の量。

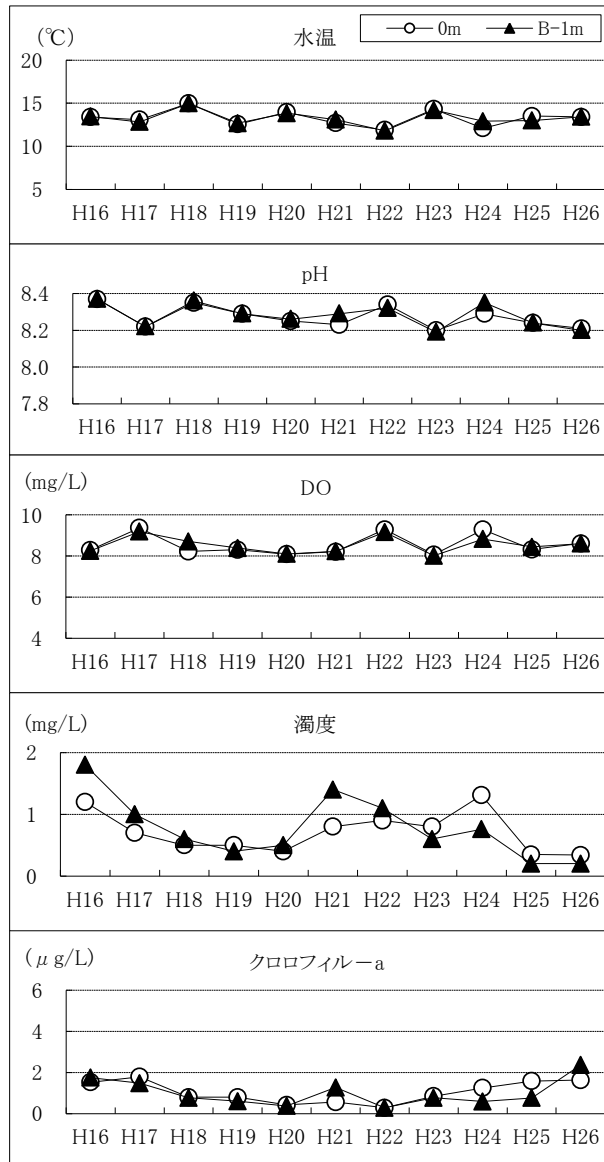
濁度: 海水中の濁りの度合い。

クロロフィルa量: 植物プランクトンの光合成色素。

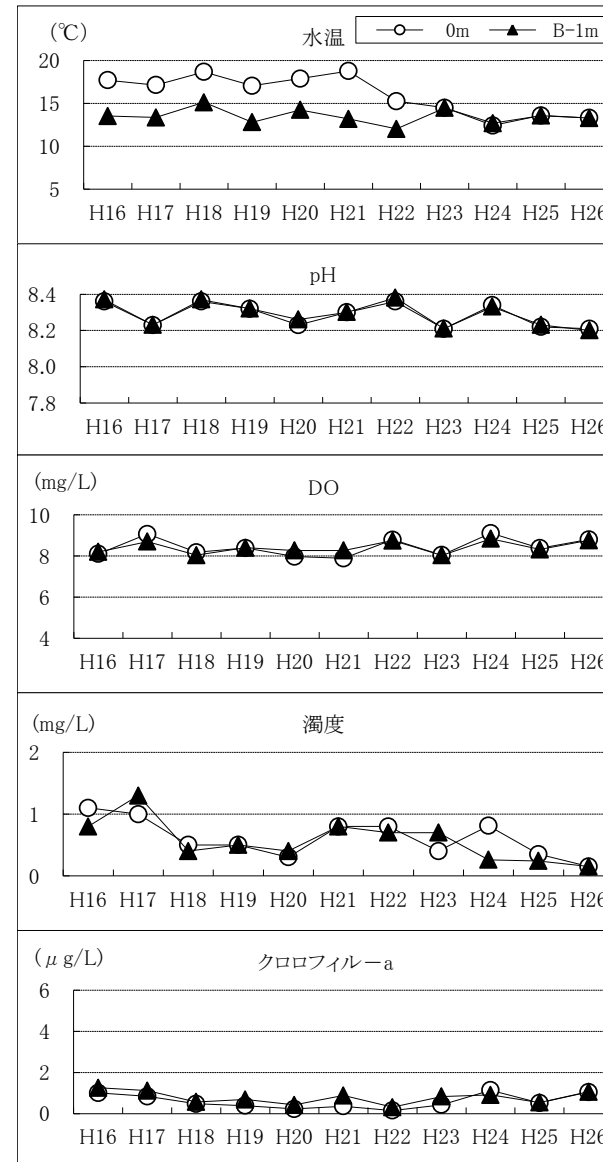
海のプランクトンの生物量や生産量の指標として扱われている。

冬季水質調査結果の推移

取水口側



放水口側

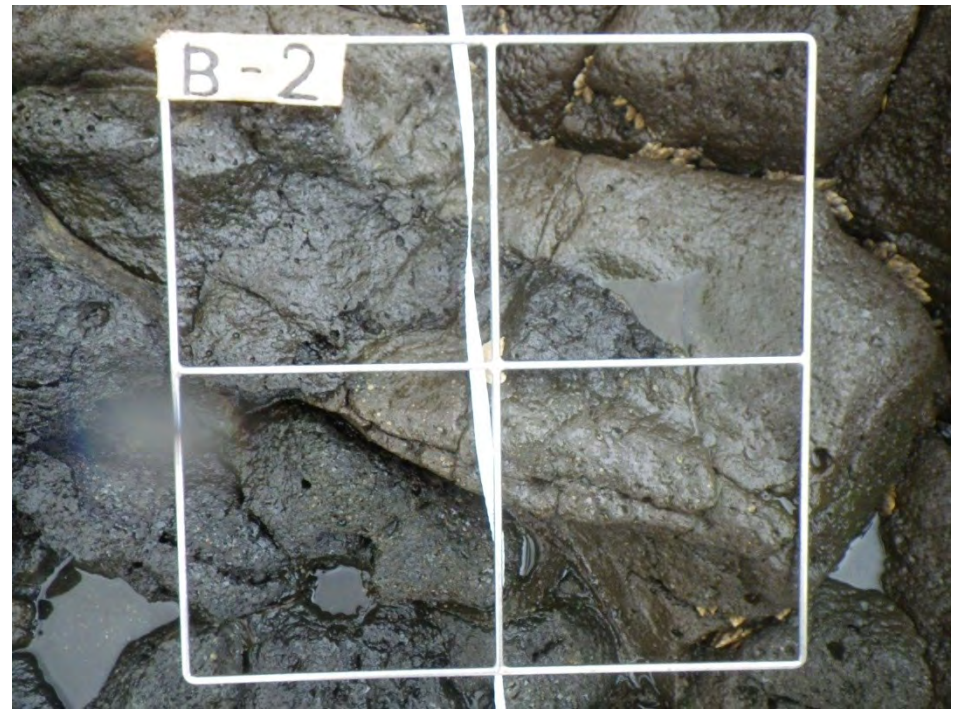


付着生物調査

調査ライン



調査点



出現生物例(動物)

カサガイ類



イボニシ類



フジツボ類



カメノテ



出現生物例(植物)

サンゴモ亜科



サビ亜科



平成26年度(冬季)温排水影響調査結果

全号機停止中のため、放水口周辺では稼働時のような水温の上昇はみられませんでした。

その他の各調査については、過去の変動の範囲内でした。